

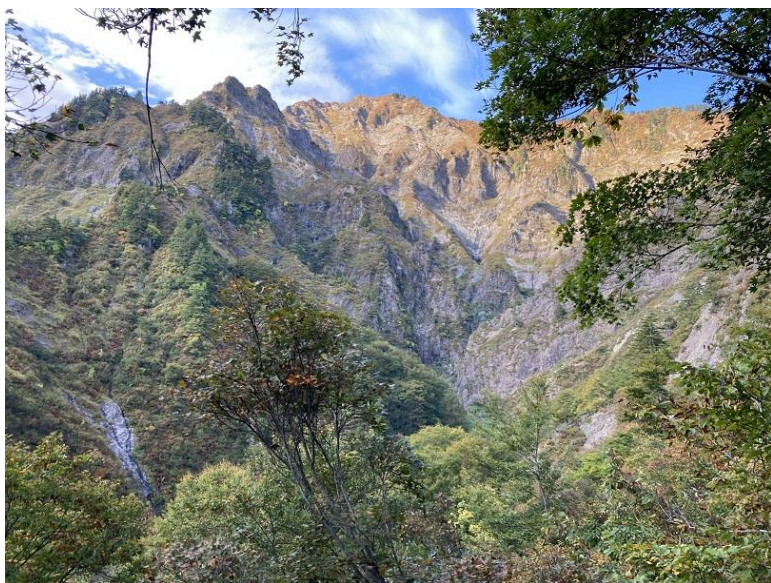
## 会越・御神楽岳 (栄太郎新道～室谷)

2022年10月22日

メンバー：T野・T村M・T村E・I崎・A原・S京・H多・D山（お試し）



年に1回、少し贅沢な宿に泊まってハイグレードなハイキングを楽しもう！！という企画、名付けて「銀座冒険旅クラブ！！」去年は、岩櫃山と嵩山で歴史と冒険の山旅を楽しんだが、その時、メンバーはわずか3名だった。「銀座ではこういう企画は流行らないのかな？」と思ったが、今年是会越の御神楽岳で計画したところ、何と9名ものエントリーがあった。残念ながらこの手の企画が大好きなmさんが、足の怪我が治らず不参加となってしまったが、それでも8名という大人数が集まり、「銀座冒険旅クラブ！！」自体のコンセプトが受け入れられない、ということではないらしいので、今後も年に一度くらいはこういう企画を企てたいと思っている。その時は皆さん、また宜しくお願いします！！



さて、今週末、全国的には週末は穏やかな晴天に恵まれるところが多いのだが、なぜか我々が向かう会越方面は土日とも予報が悪く、ギリギリまですったもんだした。結局、金曜日の予報で日曜日は絶望的だが、土曜日は昼まで雨マークが付いていないので、土曜日に当初のルートを決行することを全員一致で決めた。天気予報が良い那須の旭岳をセカンドルートとして用意していたにもかかわらず・・・である。今回、いかに御神楽岳に思い入れのあるメンバーが参加していたのかがわかる出来事であった。

- 写真上 悔れないアプローチ。
- 写真中 ドーンと現れる湯沢の奥壁！
- 写真下 飽きない岩稜が続いて楽しい。



御神楽岳は東面に大規模のスラブ状岩壁が発達した「会越の谷川岳」の異名がある山である。この東面に唯一、ロープを使用しないで登れるルートが「栄太郎新道」である。栄太郎新道が開拓されたのは昭和34年、結構歴史のあるルートで、



図らずも僕と同級生だ。まあ、そんなことはどうでも良いのだが、ここはいわゆる「破線ルート」、破線ルートと云うのは普通の登山道とバリエーションルートの間くらいのルートである。ただ同じ破線ルートでも、ルーファイが難しいルートもあれば、通過が危険なルートもある、ただただ藪っぽく不快なルートもあれば、一般ルートと比べれば難しいがスッキリしていて快適なルートもある。さて、果たして栄太郎新道はいかに・・・？では報告です。

10/7の夜、T野車とT村車に分かれて東京を出発。T野車は佐野新都心の駐車場でI崎車と合流、T野車を駐車場にデポして、I崎車で高速をぶっ飛ばし一気に「道の駅西会津」へ。ここで全員合流し、軽く入山祝い、天気は霧に煙っていて明日が不安だ。強気な判断が凶とでるか吉と出るか・・・？



10/8

今日は午前中勝負なので、6時には行動を開始したい。ということで、寝不足は充分承知しているが体に鞭打って5時に道の駅を出発、蟬平登山口に向かう。天気は相変わらずガスが立ち込めているが、時々空が明るくなるので晴れ霧なのかもしれない。期待しよう！！



■写真上 両側スツパリ切れ落ちたリッジに行く！！

■写真中 ずっとこんな感じの登りが続く。

■写真下 ここは穂高？いえ、御神楽です！！

蟬平登山口に車をデポして6:10出発。最初は広谷川沿いの深い峡谷をトラバースする踏み跡に行くが、ところどころ沢に切れ落ちている場所もあって最初から気が抜けないルートである。そういう場所で後ろを振り返るとスラブの弱点を上手く繋いでルートを作っ

て、辿ってみるとそうでもないが、遠目に見るメチャ悪そう。よくぞこんな場所をルートにしたものだ。と先人のルーファイセンスに感心する。やがて、湯沢出合の看板があり、ここからルートは沢を離れ



て急峻な尾根に取付く。この頃にはすっかりガスが晴れ、紺碧の空に湯沢の岩壁が映え素晴らしい！！登るにつれ紅葉も鮮やかになり、岩場も出てきて楽しくなってくる。岩場にあるロープや鎖には手を触れないで登るとなお楽しい！！高度感のあるナイフリッジも出てきて、こういう所では得手不得手がはっきり出る。僕はどちらかというと苦手、2本足で歩くのが恐く、四つん這いになっておっかなびっくり通過するが、H多さんはこういうのが得意なようで、こちらが見ていて怖くなるような場所を平気で2本足で歩いてくる。ただ、こういう場所も限界を超えた怖さではなく、楽しめる怖さなのが良い。スッキリとした急峻な痩せ尾根が続き、辺りは迫力のある岩壁に囲まれ、ロケーションも最高だ！！

「高頭」まで一気に登ると、次の目標は「湯沢の頭」。いちど高度を落として再び200m程登る。このセクションは少し藪っぽいところもあるが紅葉がまさに最盛期！！岩壁を彩る錦秋の世界を楽しむ。

「湯沢の頭」に登るとようやくご本尊の「御神楽岳」の全



貌が拝める。「カッケエー！！」広谷川の奥壁が競り上がり、凄い迫力、ひと言で表現するなら「男前の山」である！！今まで見えなかった下田・川内の秘峰群がスラブ剥き出しで姿を現し、この辺りの山々は、とても1000mそここの山とは思えない迫力である。そして振り返れば辿って来たルートが・・・これまた、「こんなところよく歩いて来たなあー」と思える迫力あるナイフリッジが眼下に伸びている。いやいや素晴らしいルートではないか！！

さらに彩り鮮やかになった紅葉の痩せ尾根を雨乞峰まで登れば核心部は終了、普通の登山道を10分も歩けば御神楽岳山頂であった。有難いことにまだ晴れていて、辺りの山々も見渡せ出来すぎの天気にはただ感謝！！である。

■写真上 錦秋のリッジに行く！！

■写真中 湯沢の頭まで登ると御神楽岳がドーンと姿を現す！！

■写真下 振り返れば、辿ってきた栄太郎新道のリッジが。



さあ、まだ先は長い、気を抜かずに行こう！！雨乞峰まで戻って室谷ルートを下山する。するとどうだろ



う！！こちらのルートはとても同じ山とは思えない。今までの急峻さが嘘のような穏やかなブナの森を歩くルートだ。

「藪っぼい」とか「泥濘だらけで歩きにくい」という記録もあるが、最近雨が降っていないからか、比較的歩きやすく快適に高度を落としていく。このルートからの往復なら特に問題のない普通の山である。ただ、声を大にして言いたいが、「やはり御神楽岳に登るのであれば、ぜひ、栄太郎新道から登るのを勧めたい！！」あの、ロケーションあつての御神楽岳であると断言できる。ただ、「下山は圧倒的に室谷ルートを勧めた

い！！」栄太郎新道を下山するのは、ちょっとしたミスが即、「ゲームオーバー」という場所が多すぎる。固定ロープがないわりに嫌らしい場所もあり、登るには問題ないが下りの場合はかなり危険なルートである。ましてや雨でも降っていたら最悪だ。今回は、今日泊まる宿に送迎を頼んだが、宿に泊まらない場合は車2台ないと計画しにくいルートである。

さて、我々はあと30分で下山という所でついに雨につかまった。でも、全く想定内、よく持ってくれた！！今日の天気のお神様にホント感謝である。

行動時間約9時間、充実のハイグレードハイキングでした！！お試して参加したD山さんは、少し苦勞もしていたが、この山行で銀座への入会を決めてくれた。これから宜しくお願いします。参加したメンバーも皆、この山を存分に楽しんだようで良かった良かった。

■写真上 御神楽岳山頂！！

■写真中 室谷川から見た御神楽岳は普通のお山。

■写真下 今回のお宿「小会瀬」料理が美味しかった！！

そして、もう一つのお楽しみ、「ちょっと贅沢な温泉宿 小会瀬」である。ゆっくり温泉に浸かり、贅沢な夕餉を楽しむ

み、部屋で日本酒をちびちびやりながら意識が遠のいていく・・・。充実した後のこの緩さが最高である。しかも、今回は旅行支援の割引が効いてラッキー！！40%も割引があり、¥12000の宿代が¥7200に、さらに一人¥1000のクーポンが付いて、酒代もほぼこれで賄えた。これは癖になりそうである。まあ、今回のような割引がなくても年に一度は良いよね、こういうのも・・・。



#### ■コースタイム

蟬平登山口 (6:10) ~ (7:30) 湯沢出合  
~ (9:38) 高頭 (9:50) ~ (10:40) 湯  
沢の頭 (11:05) ~ (11:58) 雨乞峰  
(12:16) ~ (12:21) 御神楽岳  
(12:40) ~ (15:10) 室谷登山口

10/23

宿のフカフカの布団で爆睡を貪り、起き抜けには朝風呂を楽しみ、一品一品が手の込んだ美味しい朝食を頂き、充分贅沢な宿を堪能して、とりあえず麒麟山に向かうが、現地で雨が降り出し、歩くのは止めて観光に切り替え、味噌と漬物の美味しそうな土産物屋に入り、主人の味噌へのこだわりのうんちくに耳を傾ける。皆、そこそこ買い物をしたので主人も上機嫌、そこの主人のお奨めポイント、赤崎山森林公園に向かう。雨が止み、展望台付近を散歩。阿賀野川の巨大な蛇行が手に取るように望め、なかなかの絶景！！昨日からの余韻を楽しむ。帰路は「道の駅西会津」でお土産を買って、西会津のラーメンの名店「越後屋」でラーメンを食べてこれをメとして帰京した。



■写真上 赤崎山森林公園の展望台から望む大蛇のように蛇行した阿賀野川。

■写真下 御神楽岳バックに！！

御神楽岳、さすが日本200名山に選ばれただけあり良い山でした！！柴太郎新道は、沢登りやクライミングをしている人にとっては楽しみながら登れるルートで、素晴らしい景観と適度なスリルで変化に富み、秋の紅葉時期にはお奨めです。また、この御神楽岳にそれほど難しくはないけど美しい変化に富んだ沢があることを知った。「前の沢左俣」若者は日帰りで楽しんでいるが沢で泊まっている記録もあるので来年はぜひこの沢から登ってみたい！！

最後にいつものことだが、一緒に登ってくれたメンバーに感謝！！

■前の沢左俣

<https://falllove0413.com/2020/08/22/maenosawa/>